併する症例の報告がみられる．また，異所性灰白質は胎生3～5カ月に起こる神経細胞移動異常によっておこるとされており，統合失調症の患者でも不均一な神経細胞分布を認めることがあるという報告もある．

【結語】異所性灰白質と統合失調症や自閉スペクトラム症の一部の症状には関連があるかもしれない．

8　うつ状態に対してデュロキセチンを投与後に妄想が出現した1症例

湯川　尊行・井上絵美子・坪谷　隆介
恩田　啓伍
魚沼基幹病院精神科

【はじめに】デュロキセチンは，うつ病・うつ状態をはじめとして，線維筋痛症，腰痛症，変形性関節症，糖尿病性神経障害等に適応を有し，精神科領域のみならず整形外科領域でも処方されるセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤である．デュロキセチンのドパミン神経系刺激作用は弱く，副作用として精神病症状を惹起したという報告は少ない．我々の知る限り，デュロキセチンが妄想を惹起したという症例報告はない．今回我々は，うつ状態に対してデュロキセチン20mgを投与したところ，約2週間後から妄想が出現した1症例を経験した．本発表にあたり本人から同意を得るとともに個人情報の保護に最大限配慮した．

【症例】60歳代女性．精神疾患の家族歴なし．X-7年，特に大きな誘因なく，動悸，倦怠感が出現した．A医院を受診し，スルピリドを処方され，症状が軽減し，以後はスルピリド最大150 mgの内服を継続していた．X-1年10月，当時勤務していた会社を退職した．再就職先がなかなか見つからず，経済的な心配，将来への不安が強まった．X-1年12月，不眠，思考力・集中力の低下，食欲低下，抑うつ気分が出現し，A医院からの紹介でB病院精神科を受診した．特定不能の抑うつ障害と診断され，スルピリド最大150mgで治療を継続された．X年3月，心気的な不安，意欲低下，倦怠感，思考力・集中力の低下が増悪し，スルピリド最大150mgからセルトラリン100mgに置換された．症状の改善に乏しいため，X年7月，ジェイゾロフト100mgからサインバルタに置換を開始された．サインバルタ20mgの内服開始から約2週間後，「隣人にお金を盗られる，水に毒を入れられる」「お札や結婚指輪が偽物だ」「薬をすり替えられる」「自分の車が違う車に入れ替わっている」等の妄想が出現し，興奮するようになり，X年8月，B病院精神科に医療保護入院となった．クエチアピン最大100mgは倦怠感のために，ブレクスピプラゾール1mgは下肢のムズムズ感のために，いずれも継続できず数日間で中止され，その後は，抗精神病薬は投与せず経過をみられた．妄想，精神運動興奮は，デュロキセチン投与中止後約2週間で軽快傾向となり，約4週間で消失し，退院となった．以後1年以上，妄想の再燃を認めていない．

【考察】症状経過から，本症例の妄想はデュロキセチン誘発性の症状である可能性が高いと考えられた．本症例は，長年にわたるドパミン受容体拮抗薬の服薬歴があり，ドパミン神経系の感受性が修飾されていた可能性もある．デュロキセチンは，頻度は低いながらも，幻覚や妄想を惹起しうる．デュロキセチンなどの抗うつ薬誘発性の精神病性障害は，統合失調症をはじめとした精神病性障害や認知症性の鑑別疾患として留意すべきである．

9　児童・思春期精神科病棟でのゲーム機使用に関する全国調査 －現状とその対応－

吉永　清宏[1]・杉本　篤言[1,2]・姉崎　則子[1]
佐藤　博幸[1]・山本万里子[1]・山田　美穂[1]
江川　　純[3]・染矢　俊幸[3]
新潟県立精神医療センター[1]
新潟大学大学院医歯学総合研究科
地域精神医療学寄附講座[2]
同　精神医学分野[3]

インターネットゲーム障害は中高生の数％に疑われており，依存的使用など様々な問題が指摘されている．その治療の問題点として，入院中にゲームを禁止する方がよいか，一部使用を許可し